

みんな日々成長

みちのく訪問看護ステーションでは現在5人の医療的ケア児に訪問をしています。

年齢は3歳から17歳。自宅、学校、幼稚園などその児の状態に応じた場所へ訪問しケアを行っています。

17歳の男の子は気管切開をしており訪問時に気管カニューレの交換をしています。ゲームが大好きな高校生でカニューレ交換をする時もゲームをしたくて「お顔真つすぐね」と声をかけてもすぐにテレビのほうを向いてしまいます。そういう時は、お母さんに手伝ってもらい顔を支えてもらいながらケアを行います。去年の11月にはRABの取材も受け医療的ケア児が注目されていることがよくわかりました。写真はその時に撮ったものです。



幼稚園や学校へはお昼に訪問し血糖測定とインスリン注射を実施しています。一人はお腹にポンプを装着し、そこから血糖値を見て必要な量のインスリンを注入します。インスリンポンプを使用するのは初めてで、お母さんと一緒に説明を受けたりもしました。在宅でも学ぶことが多いと感じています。



3歳になる男の子は生後2カ月から関わり職員全員で成長を見守ってきました。訪問時は吸引と経鼻栄養カテーテルの交換をしています。脳性麻痺でお喋りすることは難しいですが、声を出して笑うようになった時はお母さんと喜び合いました。

医療的ケア児の訪問はお母さんとのコミュニケーションも大切にしています。一緒に悩みながら私たちも成長してきました。当訪問看護ステーションにはむつ市で初めての男性の訪問看護師がいます。みんな魅力にあふれたスタッフです。働いてみたいと思う方は見学だけでも来てみてください。